

🗑️ これってどう捨てればいいのか？

捨てる機会の少ないごみは分別に迷うことも多いはず。収集日や分別方法が分かるアプリ「さんあ〜る」などを活用して正しく分別しましょう。



ごみ分別アプリ「さんあ〜る」
 ios版 Android版

Q. 小型充電式電池は どう捨てればいいのか？

A. モバイルバッテリーやデジタルカメラなど、小型充電式電池は集積場所に出すことはできません。製品本体から取り除き、リサイクル協力店へ。製品本体は不燃ごみか小型家電回収ボックスへ。



Q. 袋に入らない大きさの ごみはどうしたらいいのか？

A. 粗大ごみとして処理してください。方法は3種類。

- ①自治会の粗大ごみ集団回収に出す。
- ②清掃工場に自己搬入する（荻窪清掃工場か富士見クリーンステーション）。
- ③戸別収集に依頼する（西部清掃事務所）。

ごみの分別できていますか

～誰もが気持ちよく過ごせるまちへ～

皆さんは、きちんとごみの分別ができていますでしょうか。あまり意識せずに、なんとなく捨ててはいませんか。今回は、六供町生川自治会の環境美化推進員の皆さんにごみの分別についてインタビューをしました。

担当▶ 尾池 優香、小崎 礼、坂井 麻由、菅野 朔来 関 ごみ減量課 ☎027-898-6272



私たちが生活する上で、ごみの処理は切っても切り離せないものです。今回取材した環境美化推進員の皆さんは、住民がきちんとごみの分別ができていないかを確認。できていない場合は対策を行い、まちの環境美化に取り組んでいます。

ルールを共有するための対策

さまざまな人が暮らす前橋市だからこそ、解決しなければいけない課題があります。例えば、外国人にもごみ出しのルールを守ってもらうということ。言語も文化も異なる中で、どのようにしたら分別の大切さが伝わり、理解してもらえるかが課題となっています。

対策として、ごみ減量課では他言語のごみ分別ガイドブックなどを作成。六供町生川自治会の環境美化推進員は実物を集積場所に掲示しています。



集積場所に実物を掲示

ごみ出しのルールを誰もが守る意識を持つためには、近隣の同士でコミュニケーションをとり合うことも大事です。例えば、地区ごとに公民館などに集まり実際に一緒にごみを分別するような場を設け、日本人、外国人問わずごみの分別について改めて学ぶことが必要かもしれません。これは地域の人と交流を持つこともでき、地域活性化にもつながるのではないのでしょうか。言語や価値観の違いは大きな壁となる場合もありますが、その違いを知り、始まることもあると思います。

一人一人が意識を持って

一人一人の生活に密着しているからこそ、一人一人が少し意識を変えるだけで大きな変化につながります。難しいことではなく、家で分別を徹底してみる、ごみが落ちていたら拾って捨てる、ポイ捨てしないなど意識を持って行動する人が増えればと思います。ごみを減らしてさらにきれいな前橋市を目指しましょう。

🗑️ 地域を見守るこんにちは収集

家庭ごみを集積場所に自ら出すことが困難な人を対象に実施している、こんにちは収集。週1回、職員が登録者を訪問し、戸別収集と声掛けをしています。利用には要介護認定を受けているなどいくつかの要件があります。

こんにちは収集は10年前に開始し、現在は900人以上が利用しています。利用者からは感謝の手紙をもらうことも。10年間の中では、体調を崩した利用者を発見し収集車に搭載したAEDを使用したこともあるそうです。



市内全域を訪問します

📝 編集後記

将来、より人口が増えるであろう外国人との橋渡しのような役割を、私たち若者が担うことが求められていると感じました。

尾池

環境を整備する前橋市、地域を見守る環境美化推進員、ごみを捨てる住民、それぞれが協力し合うことで解決できる問題だと感じます。

小崎

地区ごとに設置された集積場所や収集日を守っていない人がいるという問題もあるそうです。誰もが意識をもつことが必要だと思いました。

坂井

誰かがルールを破ることで困ったり、大変な思いをしたりする人がいます。このことを多くの人に知ってもらい意識してほしいと思います。

菅野

ワカモノ記者 SNSも見てください!



Instagram フェイスブック